

「思いやりの心」の基盤育成を目指した心の教育総合プラン

—「V L Fプログラム」の人権教育における展開を中心に—

専 攻 教育実践高度化専攻
コ ー ス 心の教育実践コース
学籍番号 M07307H
氏 名 長谷部義郎

本研究は、アメリカで開発されたV L F (Voices of Love and Freedom) プログラムを活用して、わが国の人権教育の動向や子どもの実態を踏まえ、「思いやりの心育成のためのV L Fプログラム」の人権教育における展開を提案する。セルマン (Selman, R. L.) の役割取得理論を基盤にしたV L Fプログラムの導入は、人権教育に新たな視座を提供し、人間尊重の精神に基づく「生きる力」を培うための有効な実践方法として、心の教育総合プランに位置づけた展開が期待される。

1. 人権教育へのV L Fプログラム導入の目的

近年、青少年による深刻な事件が多発しており、社会的自立の遅れ、規範意識の低下といった状況が各方面から指摘されている。こうした課題に取り組むための重要な柱として、人権教育を通して育てたい資質・能力の基盤ともいえる思いやりの心の育成を、新たな視点から追究していくことが必要である。思いやりの心は、相互尊重の人間関係を営むために必要不可欠な基本的な能力と考えるからである。

そこで、人権教育の動向や子どもの実態を踏まえ、小学校での「思いやりの心育成のためのV L Fプログラム」(以下、V L Fプログラム)の人権教育における実践プランを提案する。

2. 理論的基盤とV L Fプログラムの概要

V L Fプログラムの理論的基盤は、セルマンの役割取得理論に依拠している。そこで示されている役割取得能力 (role-taking ability) は思いやりの心育成の重要な鍵概念である。特に、役割取得能力に含まれ

る機能である、子どもの視点の分化、深化、統合といった過程に関する知見は、V L Fプログラムの実践を支える理論的基盤をなしている。

わが国における「思いやりの心育成のためのV L Fプログラム」は、渡辺弥生により提唱され、主として小学校や幼稚園での実践がなされている。V L Fプログラムの目標を、①自己の視点を表現すること、②他者の視点に立って考えること、③自己と他者の違いを認識すること、④自己の感情をコントロールすること、⑤自己と他者の葛藤を解決すること、⑥適切な問題解決行動を遂行すること、としている。

ここでいう思いやりとは、自分とは異なる他者の視点や立場を理解する能力を伸ばすことにある。V L Fプログラムは、この能力を向上させ、実際に他者を思いやる対人行動を実践できるように導いていくものである。

3. V L Fプログラムによる人権教育実践プラン

大阪市の従来の人権教育カリキュラムでは、人権に関わる様々な問題やテーマをもとに構成されていたが、新たに人権教育において育てるべき資質を想定し、それらの育成に取り組むといった視点に立って組み換えたカリキュラムを提案している。「自己実現をめざす子ども」を、「自分に対して肯定的な自己概念や自尊感情を持ち、多様な他者と豊かな関係をつくりだし、社会に意味ある形で参加することを通じて、自分らしく輝く生き方」と定義し、子ども一人一人の自立と自己実現を支援するという新たな発想のもとで人権教育に取

り組んでいる。

そこでは、①共生の心②積極性と広い視野③人間関係づくりの力④科学的・合理的な考え方⑤自己認識力⑥課題解決力⑦社会参画力などを「自己実現をかなえるための7つの資質」として提示している。人権教育カリキュラムは、【領域1：かけがえのない自分づくり】【領域2：豊かな人間関係づくり】【領域3：未来の市民づくり】【領域4：人権が守られる環境づくり】の4領域から構成されている。

VLFプログラムの持つ特性は、大阪市の人権教育カリキュラムで想定した「7つの資質」を育むために有効な教育方法のユニットを提供するだけでなく、この7つの資質の基盤ともいえる思いやりの心（役割取得能力）の発達を長期的な視野において促進するものとする。

VLFプログラムの導入にあたり、その目標や活動の特性を勘案し、他者とのコミュニケーションや仲間づくり、多文化共生を中心に扱う【領域2】に位置づけた人権教育実践プランを構想した。小学校1～3年は「思いをつなげよう」、小学校4～6年では「互いに認めあおう」と総合テーマを設定している。

その各ステップでは、子どもが日常生活で遭遇する人権に関わる身近な対人葛藤のある物語を取り上げ、物語の葛藤場面で立ち止まり、登場人物の様々な視点を疑似体験し、登場人物の立場に立って問題解決を考えていけるように題材を配列している。

【領域2】 VLFプログラムによる実践プランのテーマ		
低学年	I	あたたかい言葉かけ 【共感】【思いやり】
	II	みんなで助け合って 【親切】【視覚障害の理解】
	III	もめごとに出会ったとき 【勇気】【仲間づくり】
高学年	I	ちがっていてもいいよ！ 【個性】【仲間づくり】
	II	外国からの友だち 【思いやり】【国際理解】
	III	友だちのいいとこさがし 【友だち理解】【思い込み】

活用する絵本資料は、大阪市の『「はーと&はーと」絵本原作コンクール入選作品』から5作品と一般絵本1作品を教材として選択し、VLFプログラムによる人権学習指導案を6案（低学年3案、高学年3案）作成し示している。

4. VLFプログラムの総合的展開

VLFプログラムの人権教育における導入は、長期にわたる思いやりの心の発達を視野に置いた取組みを可能にするとともに、社会の変化によって生じる様々な人権課題にも対応できるものである。VLFプログラムは、ただ問題点を指摘するだけではなく、具体的に実行できることを考え、思いやりの心を育むプログラムである。

この特性を生かして学級の中に、「いじめはないか」「友達を決めつけた目で見ていないか」など、子どもや教師にとって見過ごしにできない具体的な課題を取りあげることができる。VLFプログラムは、学校生活の中で、子ども達の人権が守られ、保障される予防的、開発的な取組みとしても有効である。

さらに、学校の実態に応じて、学級経営計画、人権教育全体計画、道徳教育全体計画等に位置づけ、それらを統括した教育課程全体計画に順次VLFプログラムを位置づけることにより、思いやりの心の基盤育成を目指した心の教育を学校全体の教育課題として、長期的・総合的に取り組むことが可能になるであろう。

5. 今後の課題

提示したVLFプログラムによる人権教育実践プランの学習指導案では、子ども達に分かりやすい身近な人権に関わる対人葛藤を取り上げている。これらの実践を通して、子ども達と教師が協同して、様々な視点や立場にしっかりと立ってみるといった体験をすることに大きな意義がある。今後、VLFプログラムの具体的実践を進めるとともに、その過程における様々な課題を受け止めつつ、小学校での心の教育総合プランの中に位置づけた展開と研究を深める必要がある。

主任指導教員 渡邊 満

指導教員 竹西 亜古

指導教員 山中 一英